年度報告書 2024

2024.04
～
2025.03

ワールドチルドレン芸術祭

目次

1. はじめに

2. これまでの経緯

3. 2024年度 活動概要

4. 会計報告

5. おわりに

1. はじめに

2022年4月より活動を再開した「芸術祭」その名を「ストリートチルドレン芸術祭」から「ワールドチルドレン芸術祭」へと衣替えをして、３年が経過しました。

かつては路上生活を強いられている世界の子どもたちに特化した私たちの活動は、コロナ禍によって活動休止を余儀なくされましたが、世界38の国と地域で支援活動を展開する国際協力NGO「ピースウィンズ・ジャパン」（PWJ）様*のご協力により活動再開が実現したことで、難民をはじめとする世界中の子どもたちへの支援を行うという目的へと装いを新たにしました。2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻、そして2023年10月に始まったパレスチナの武装組織ハマスとイスラエルとの戦闘により世界の難民の数は激増、2024年は前年から630万人も増加して１億2,320万人となりました。そして230万人の子どもがたち生まれながらにして難民となっています。**

私たちは、そうした厳しい環境の中で生活している子どもたちに絵を描いてもらい、それを伝えるためにカレンダーを制作し、イベントに参加し、展示会を開催しています。私たちの活動の第１の目的は、困難にある子どもたちへの経済的な支援です。カレンダーの売り上げ等の収益は、PWJを通じて子どもたちの支援に役立てていただいています。しかしそれにとどまらず、厳しい環境にある子どもたちは、絵を描くことで、そしてそれがカレンダーに掲載されたり、展示会で公開されたりすることで、自己の存在意義を感じたり、自尊心が芽生えたり、といった効果が報告されています。その意味で、精神的な支援も行うことができているものと自負しています。私たちの活動の第２の目的は、そうした世界の子どもたちの現状を、日本をはじめとする先進国の人々に伝えるために情報発信することです。そのために、地元仙台での学園祭や販売会だけでなく、東京で開催される「グローバルフェスタ」などの大きなイベントにも積極的に参加しています。そして私たちの活動の第３の目的は、学生たち自身の学びです。先のさまざまな活動を通じて、学生たちは大きな学びの機会を得ることができています。とりわけ、海外へのスタディツアーは学生たちの貴重な経験となっています。

2023年度は、７年ぶりにスタディツアーを開催し、ネパールを訪れました。今年度はスリランカを訪問し、カレンダーに採用された絵を描いてくれた女の子の学校をはじめ多くの小学校を訪問して多くの子どもたちと交流したり、PWJの現地での支援活動の様子を視察したり、たいへん充実したツアーを敢行することができました。

こうした活動を再開し、継続することができているのは、PWJ様のご協力、長年にわたり活動を支え続けてくださっているアルソア慧央グループ様***のご支援、そしてカレンダーをご購入いただいき、展示会等に足を運んでいただいている支援者のみなさまのおかげです。これからも、柱となるカレンダー制作・販売を中心に、グッズ制作・販売、各種イベントへの参加、メディアからの情報発信、地域における教育活動等を通じて、世界の子どもたちのために活動していく所存です。これからもあたたかいご支援をいただければ幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

ワールドチルドレン芸術祭
東北福祉大学　生田目学文

* ピースウィンズ・ジャパン　ホームページ：https://peace-winds.org/
** 国連UNHCR協会　ホームページより：https://www.japanforunhcr.org/refugee-facts/statistics
*** アルソア慧央グループ　ホームページ：https://www.arsoa-keio-group.co.jp/

2. これまでの経緯

2005年にストリートチルドレン芸術祭が発足

路上で暮らす子どもたちをただ単にかわいそうで見るのではなく、彼らの描く絵を通じて彼らの存在や思い・感性・可能性を一人でも多くの人々に実感してもらえたらという願いから、ストリートチルドレンに特化した芸術祭を開催する組織として2005年に世界で初めて誕生しました。
ストリートチルドレン芸術祭は有給スタッフ不在のボランティア団体で、当初は熱海市立小嵐中学校の生徒・教職員のほか、各地の小中学校の教員、国際協力関係の団体職員、会社員、主婦、大学生、高校生など、内外30名ほどのスタッフで構成されていました。世界100か国以上に広がる国際協力機構（JICA）のネットワークやNGO団体、世界の若者たちのネットワークなどの協力を得て、世界の子どもたちの絵が集められていました。

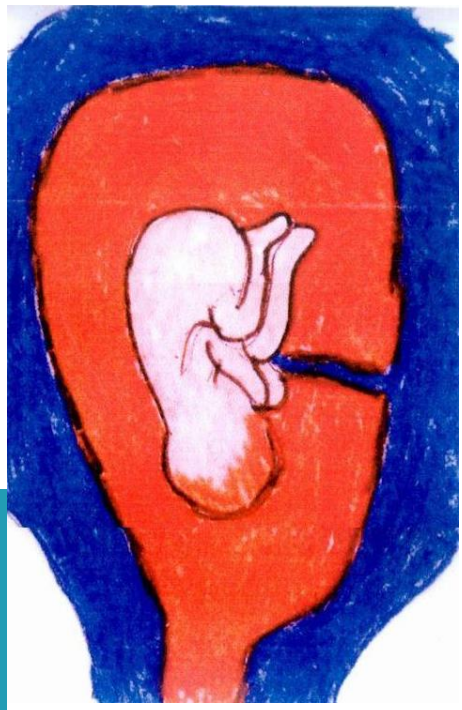
新型コロナウイルスによる活動休止

2020年より世界的に大流行となった新型コロナウイルスは、活動拠点のある宮城県においても感染が急拡大し、県内の医療機関は逼迫し、拠点の東北福祉大学構内への立ち入りが規制されることとなりました。新入生の勧誘をはじめ、学内の課外活動再開の見通しも立たず、海外へのスタディツアーはもちろん、チャリティグッズの販売会や絵の展示会といったイベントも全く開催できない状態となり、事務局メンバーはコロナ対策と学業、それを支えるアルバイトなどのため、ボランティア活動を継続できない状況となり、活動の休止を余儀なくされることとなりました。

活動の原点

この一枚の絵は、私たちの活動の原点です。

「将来自分が住みたい家」というテーマで、多くの子どもは田園風景に広がる小さな家を 描く中、彼だけが、お母さんのお腹の中にいる胎児を描きました。
彼は、「だって自分が 15 年間生きてきた中でここが一番安全だから…。」というコメントを寄せました。



作者：ジェイソン

出身国：フィリピン

性別：男の子

年齢：１５歳（当時）

ワールドチルドレン芸術祭とは？

２０２１年９月様々な境遇の子どもたちが参加できる芸術祭、ワールドチルドレン芸術祭と改め、活動を再開。２０２１年９月まだまだ予断を許さない状況でしたが、深刻な被害を与えていた新型コロナウイル スの感染縮小と、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様によるご協力により、活動を再開する運びとなりました。

また、長年ストリートチルドレン支援に焦点をあてて支援活動を行って参りましたが、近年のストリートチルドレンの減少を受けて、支援の対象となる子どもたちを世 界中で支援を必要としている脆弱な環境にいる子どもたちに広く参加して貰えるように、「ワールドチルドレン芸術祭」という新しい芸術祭名となりました。この名称には、「世界の子どもたちが描いた絵を通して個々の「思い」にふれ、世界に目を向けた活動を目指したい」という思いが込められています。

世界中の脆弱な環境にある子どもたちに寄り添える芸術祭に

世界には様々な理由により厳しい境遇にある子どもたちがいます。災害により住んでいた家を 失い避難生活を送っていたり、紛争で故郷を追われ難民キャンプで暮らしていたり、地域によっては貧困により十分な教育を受けられない子どもたちもおり、様々な辛い境遇におかれて心に深い傷を負っています。そのような境遇にありながらも、心に光を灯し懸命に未来を見る、 そんな子どもたちの存在や思い・夢・希望のメッセージを世界中の人びとに伝えていけたらという想いから、彼らの描く作品の展示会開催やチャリティグッズの制作・販売活動を行っています。

チャリティーカレンダーの制作は2026年版で19年目となりました。収益は必要経費を除き、絵の提供に協力いただいた世界各地で活動されている国際協力NGOピースウィンズ・ジャパンを通じて絵を描いてくれた子どもたちの暮らす地域のために活用されます。世界中の子どもたちが安心して笑うことのできる世界を願い、私たちは活動を続けています。

3. 2024年度 活動概要

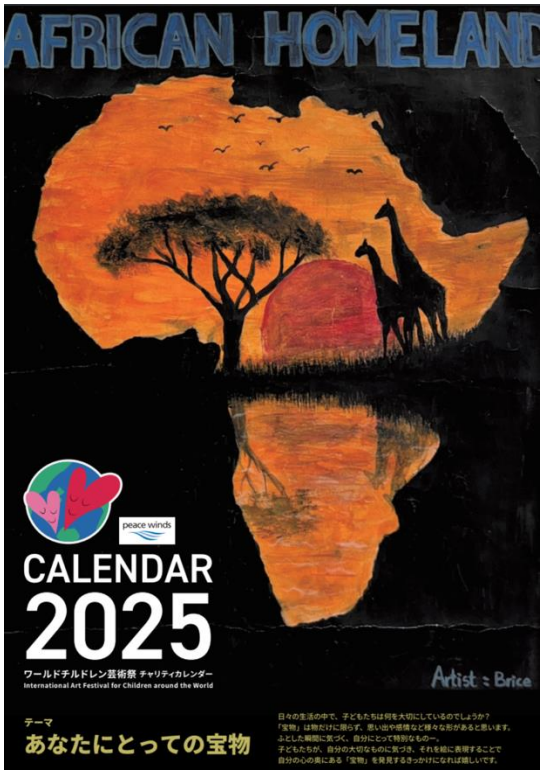
チャリティカレンダー2025

テーマ

“あなたにとっての宝物“

設定理由

日々の生活の中で、子どもたちは何を大切にしているのでしょうか？
「宝物」は物だけに限らず、思い出や感情など様々な形があると思います。
ふとした瞬間に気づく、自分にとって特別なもの―。
子どもたちが、自分の大切なものに気づき、それを絵に表現することで自分の心の奥にある「宝物」を発見するきっかけになれば嬉しいです。



東ティモールの子どもたちが描いている様子

本年度は、14か国から71点の作品が寄せられました。それぞれの作品には、作者にとって大切な“宝物”が描かれており、その題材は“もの”にとどまらず、家族や思い出といった心に残る存在にも広がっています。国は地域を超えて集まった表現は、どれも個性的でありながら、共通して「何かを大切に思う心」を感じさせるものでした。

作品選考にあたりご協力いただいた著名な方々、そして大学・高校のサークルの皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。

絵の作者と選考者

内容	作者 (カナ)	年齢	住んでる国 （出身国）	選考者
表紙	Brice N. Uwimana （ブライス・N・ウィマナ）	18歳	ケニア （ブルンジ）	森田 裕菜さん
1月	Pavlo Moskalenko （パヴロ・モスカレンコ）	10歳	ウクライナ	榎木 孝明さん
2月	Asma （アスマ）	10歳	アフガニスタン	マギー審司さん
3月	Elda Martins （エルダ ミルティンス）	14歳	東ティモール	麗澤中学・高等学校 SDGs研究会「EARTH」さん
4月	Lilan Mohammed Ismail （リラン・ムハンマド・イスマイル）	10歳	イラク （シリア）	田中 章義さん
5月	Sonia Bahati （ソニア バハティ）	14歳	ウガンダ （コンゴ民）	北川 悠仁さん
6月	Sifa Sarah （シファ・サラ）	16歳	南スーダン （コンゴ民）	中島 洋一郎さん
7月	Sakura Solang （サクラ ソラング）	10歳	パラオ	菊池 大介さん
8月	アマーニ セマーン	9歳	シリア	髙橋 旺己さん
9月	M・G・Kaushika Nethsara （M・G・カウシカ・ネィサラ）	11歳	スリランカ	岡 知里さん 髙橋 優輝さん
10月	Joseph Mylove （ジョセフ・マイラヴ）	13歳	ハイチ	滝口 玲子さん
11月	Janifa Manuel （ジャニファ・マヌエル）	11歳	モザンビーク	きむら ゆういちさん
12月	Meryem Elhatip （マリヤム・エルハティプ）	6歳	トルコ （シリア）	イルカさん
裏表紙	Ruksana Akter （ルクサラ アクタ）	13歳	バングラデシュ （ミャンマー）	若松 あい さん 廣瀬 琉那 さん

ARSOA FAMILY FES ― ゆずの北川悠仁さんとのトークセッション！

会場での展示の様子

８月４日（日） アルソア本社（山梨県）

今回の活動は、飯島、岡、若松、生田目先生の４名が参加し、約１時間、ARSOA FAMILY FES のステージ企画で北川さん、アルソアの社員の方、ピースウィンズ・ジャパンの方と共に、パネルディスカッションを行いました。

ワールドチルドレン芸術祭の活動内容を笑いあり、涙ありで紹介することができ、カレンダーの宣伝もできたため、非常に良い機会となりました。

（著：岡 知里）

スリランカ スタディツアー

８月２０日（火）～２７日（火）
スリランカ（コロンボ・トリンコマリー）

昨年に続き、サークルとして2度目となるスタディツアーを実施。2024年度は、インド洋に浮かぶ島国・スリランカを訪問しました。

今回は、作品を応募してくれた子どもたちを含む現地の小学生と、扇子の絵付けやシャボン玉、長縄跳びなど、日本文化を通じた交流を行いました。また、日頃より連携しているピースウィンズ・ジャパンの活動視察を通じて、国際協力の現場に触れることができました。

滞在中は、寺院や世界遺産、紅茶工場の見学や、現地家庭のカレーを味わうなど、観光や食を通してスリランカの文化に触れる時間もあった。日常との違いを肌で感じることで、多様な価値観への理解がより深まりました。

このツアーをきっかけにサークルに参加した学生もおり、今後の活動への広がりにも繋がりました。来年度は、より多くの学生にこの貴重な体験を届けられるよう、情報発信にも力を入れていきたいです。

（著：五十嵐 琉基）

Sampur（サンプール）村での様子

世界遺産・シーギリヤロックを訪問

グローバルフェスタJAPAN2024

９月２８日、２９日　新宿住友ビル三角広場

　ワールドチルドレン芸術祭の活動を知ってもらうため、出展ブースにて子供達の絵を展示、グッズの販売を行いました。

　今回の活動は規模が大きく、慣れない場所の中で連携が求められる場面も多くありました。しかし、先輩方の協力のもと、事前準備をしっかり行なっていたこともあり、概ね問題なく二日間を終えることが出来ました。その一方であまりお客さんの入りが良くない印象があり、チラシを作るなどお客さんが興味を持ちやすい環境作りが必要だと感じました。来年度は、今回の反省を活かしてもっと多くの人に私たちの活動を知ってもらいたいです。

カレンダーの紹介

２日目はスリランカの作品を展示

国見祭

１０月１９・２０日　東北福祉大学 国見キャンパス

　今回の活動は全員が参加し、絵の展示、活動紹介、グッズの販売等を実施した。多くの学生や地域の方々、OGOBの方々が来場してくださり、ワールドチルドレン芸術祭を知って、募金などをしてくださる方までいらっしゃいました。カレンダーが国見祭まで間に合わず、欲しいという方がいても販売できなかったため、次回にその反省をつなげていきたいです。

（著：岡 知里）

スタディツアー報告会

１１月１７日　東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

　スタディツアーの様子をプレゼンで報告し、後方で原画展を実施。

　今回の活動では、発表内容にクイズを入れたため参加者を巻き込める内容になったと感じます。

　また、原画だけではなく活動風景を展示することで、訪問した国の様子が参加者に分かりやすく伝わったと思います。一方で、参加者が身内ばかりであったため、SNSやポスターを上手く活用して多くの方が参加できるようにしたいです。

（著：廣瀬 琉那）

仙台藤崎カレンダー販売会

１１月３０日、１２月１日　仙台藤崎大町館前

　仙台藤崎大町館前でカレンダー販売会を2日間、実施しました。場所の変更とポスターの設置により、3方向からの集客と遠方への訴求に成功し、カレンダー在庫をほぼ完売しました。

　実際にカレンダーを購入する際、多くの人が原画を見ていったため、小規模でも原画展を行うべきだと感じました。結果として、カレンダーの在庫をほぼ売り切ることができたことを非常に嬉しく思います。

（著：髙橋 優輝）

ラジオ出演　― tbc東北放送「GoGoはみみこいラジオな気分」に出演！

１２月９日　tbc東北放送 本社（八木山）

　今回の活動は、飯島、岡の2名が参加し、15分間対話形式で収録をしました。ワールドチルドレン芸術祭の具体的な活動内容や入ったきっかけ、今後の展望などを話しました。今年度のカレンダーの話題にもふれ、公共放送で活動紹介や宣伝ができたことは非常に良かったと思います。

（著：岡 知里）

4. 会計報告

ワールドチルドレン芸術祭2024年度会計報告

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	¥2,930,831	支援金（PWJ）*	¥800,000
Arsoa様協賛金	¥200,000	名刺代３名分	¥6,600
Arsoa様カレンダー代金	¥700,000	グローバルフェスタJAPAN2024関連費用	¥230,830
カレンダー販売（直売）x 113	¥113,000	スリランカスタディツアーPWJ謝金	¥82,000
カレンダー代（PWJコミュニケーション部様）	¥80,000	スリランカスタディツアー関連費用	¥221,231
カレンダー販売（イルカオフィス様）x 100	¥100,000	国見祭中島先生交通費	¥30,000
カレンダー販売（田中章義様）x 10	¥10,000	チラシ印刷代	¥7,613
Arsoa様ファミフェス募金	¥12,500	チラシデザイン代	¥15,000
グローバルフェスタJAPAN2024グッズ売上	¥300	2025カレンダー制作費	¥574,200
国見祭グッズ販売	¥1,400	2025カレンダー販売会ポスター・印刷代	¥4,325
スリランカスタディツアー支援（学生課）	¥120,000	2025カレンダー販売会藤崎さま支払	¥7,700
スタディツアーinスリランカ 報告会売上	¥500	2024 芸術祭ウェブサイト年間使用料	¥16,648
藤崎販売会カレンダー＋グッズ売上	¥50,600	選考者へのお礼・配送料	¥3,010
募金箱	¥12,395	2025カレンダーPWJ返品	¥10,238
ゆうちょ銀行利息	¥125	文房具代	¥10,211
寄付	¥9,315	郵送料・手数料等	¥7,100
2023年度文具代未払金	¥14,540	2023年度文具代未払金清算	¥14,540
	¥4,355,506		¥2,041,246
		残高	¥2,314,260

* カレンダー応募16か国 x 各5万円 = 80万円

5. おわりに

2024年度の活動を支えてくださった支援者の皆さま、活動にご協力いただいた協賛企業の株式会社アルソア慧央グループ様、印刷会社の皆さま、そして子どもたちの作品の提供にご協力くださったピースウィンズ・ジャパン様にこの場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

本年度は、14か国の子どもたちから作品をご応募いただき、その想いやメッセージを展示や、チャリティカレンダーという形で多くの方々に届けることができました。遠くの離れた場所で暮らす子どもたちの作品やメッセージからは、夢や希望だけではなく、彼らの生活の背景や日々の現実までも伝わってきます。

さらに昨年に引き続き、スタディツアーの開催、グローバルフェスタJAPAN出展と継続的に活動を実施することができました。加えて、新たな取り組みとしてラジオを通じた広報活動にも挑戦し、新たな情報発信を行うことができました。これらの活動は、ワールドチルドレン芸術祭の取り組みをより多くの方々に知っていただき、関心や参加の輪を広げる大きな一歩となったと感じています。

ワールドチルドレン芸術祭はストリートチルドレン芸術祭が設立されてから１９年目を迎え、来年で20年目という節目を迎えます。これからも学び、挑戦しながら、子どもたちの作品を通してその想いを多くの方々に届けていけるよう、活動を続けて参ります。

今後とも、温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ワールドチルドレン芸術祭　一同

〈連絡先〉

Mail：charity@tfu.ac.jp

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見 1-8-1

東北福祉大学・生田目研究室内

TEL&FAX：022-301-0601